



「静岡方式の現場から」

第3回公開有識者講演会

令和4年10月3日(月)

NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡 事務局長
(地域若者サポートステーションかけがわ 総括コーディネーター)
池田佳寿子

私たちの本質

「人とのつながりで人は変わる」

「縁」を再び手に入れる

ミッション

青少年就労支援ネットワーク静岡は、静岡県内の働きたいけれども働けない人びとに対して、市民のネットワークによる伴走型の就労支援を提供することを通じて、働く喜びを分かち合える、相互扶助の社会をつくることを目的とします。
(県内で2,000名を超えるサポーターの登録)

「人を乗り越えるばかりじゃなくて、まわり道しても良いって知りました。」

「相談できる場所があれば、働き続けられるって思った。」

「上手く行かないこともあるってことに慣れました。」

ボランティアサポーター登録 800名 (2019.5時点)

静岡県のどこにいても支援を受けられます

2002年11月「青少年就労支援ネットワーク静岡」は任意団体として設立され、2004年にNPO法人の認定を受けました。当法人は地域社会で活躍する人びとに「仕事に就くことだけを支援するのではなく、働くことができる人生に寄り添うことを目的としています。」

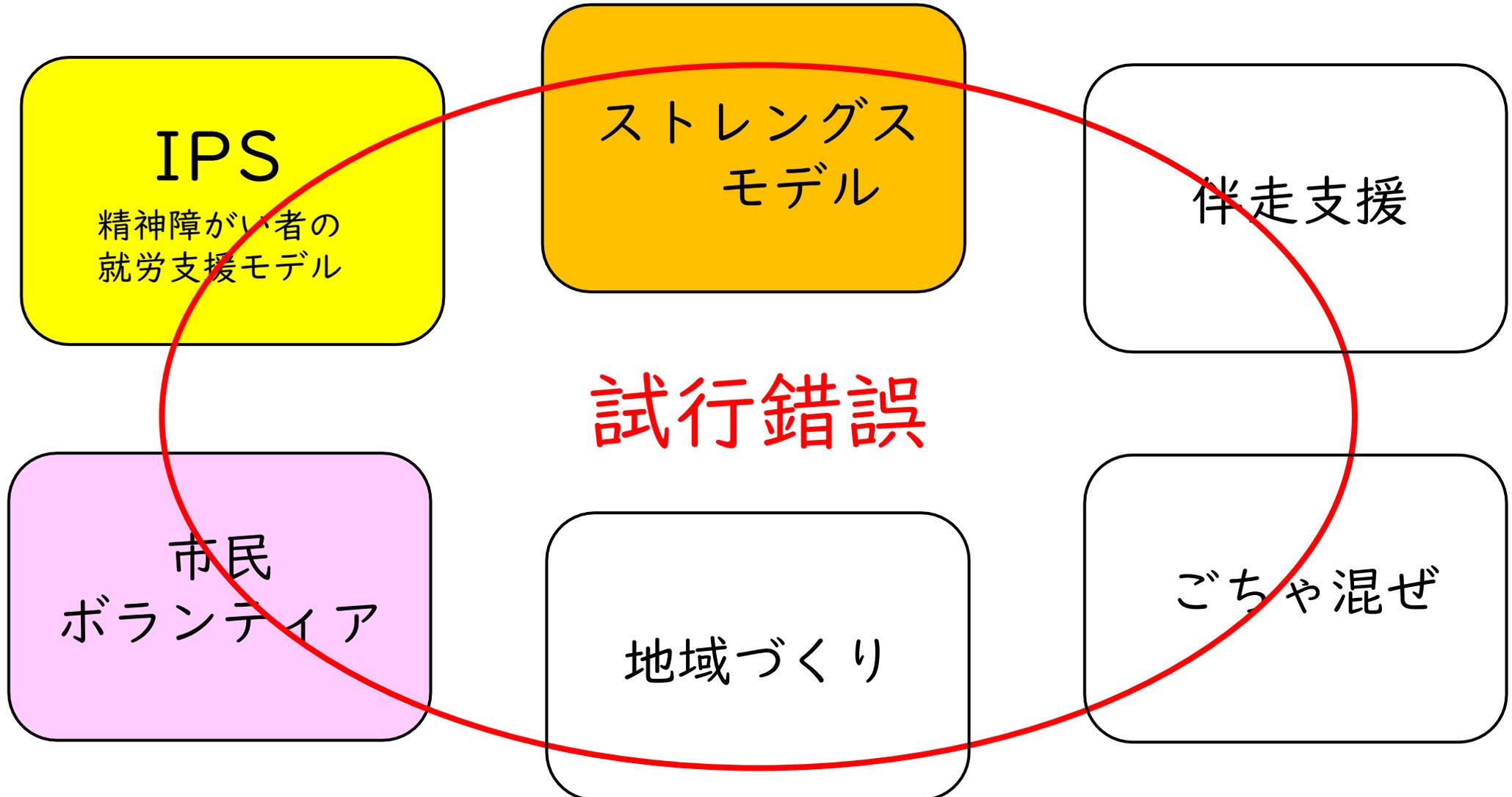
伴走型就労支援「静岡方式」

一般市民が地域のボランティアとして地域の若者の一人一人に寄り添い、働き続けることを支える「静岡方式」と呼ばれる就労支援のしくみを展開して実践してきました。2017年9月時点で約800名がボランティアに登録しています。関所は地域若者サポートステーション、生活困窮者自立支援などの事業も委託し、年間1000人を超える人々を支援しています。支援させていただいた方から「数回も数は卒業から戻し、働くことの喜びを手につくります。」

青少年就労支援ネットワーク静岡
TEL: 054-351-7555 (受付時間: 10:00~17:00)

〒424-0823 静岡県清水区長崎町 223 清水ビル 2F
静岡地域若者サポートステーション6号
MAIL: ssns@chic.ocn.ne.jp / FAX: 054-351-7556
http://www.ssns.org

「静岡方式」が大切にしていること



なぜ、静岡方式は就労支援なのか

人は社会的存在であり、自らの価値を、他者からの評価によって、相互に承認し合う。自らの誇りは、他者による適切な承認を通じて、つまり、ネットワークを通じて調達される。

私たちの多くにとって、「働く」ということが、自尊心の最大の調達源
静岡方式は、この社会的現実を前提に、就労を通じた誇りの相互承認のネットワークを地域に作り出す。

就労の能力は均等に分配されていない。一人ひとりが自分なりに精一杯働いたという「誇り」を手にする社会を目指す。

働きたいという気持ちの実現を応援する、権利保障としての就労支援
労働を商品化して社会に価値をもたらすためのものではなく、自らの誇りを手にする権利を手にするための運動

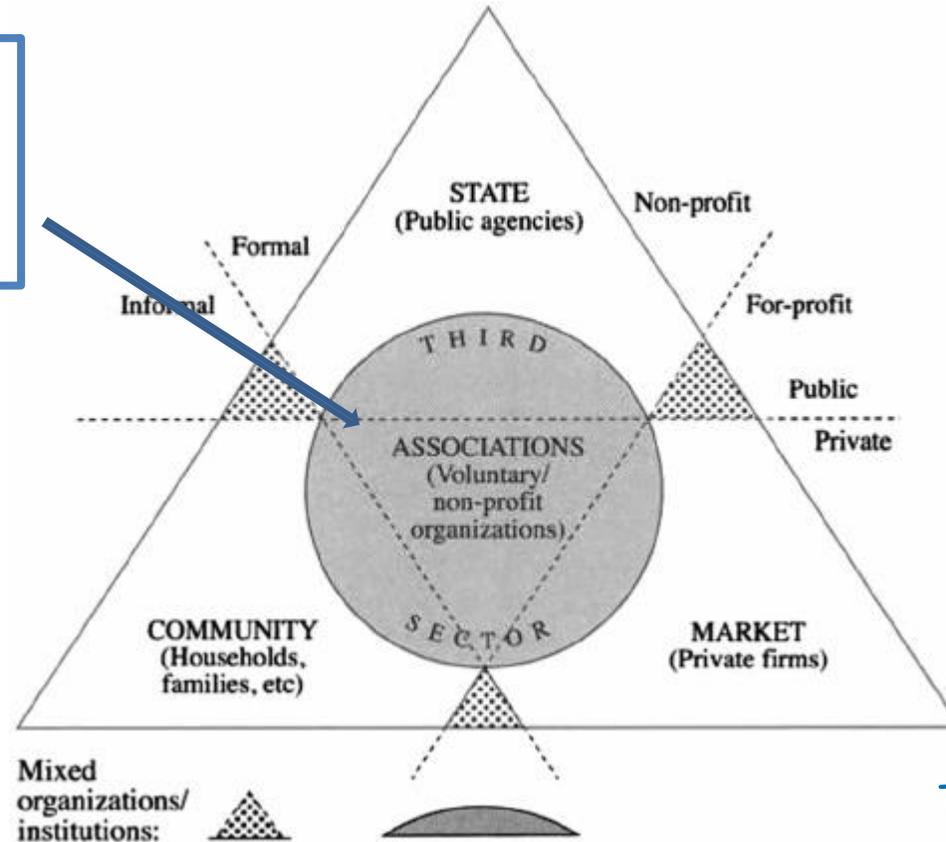
「静岡方式」が地域を大切にしている理由

- ・当初は「IPS」「伴走支援」という語の通り、個人を対象としていた。
- ・「困っている人」ほど自ら動くことが困難で、相談窓口に赴くことは難しい。地域の民生委員や自治会の方など、地域のつながりを通して出会う。
- ・就労困難は、住まいを失う、交通手段の問題、子どもの預け先に困る、相談相手がないといった、地域に散在した困りごとで、地域で解決していける問題の一部。
- ・行政の制度や市場からこぼれる人々を、互助の原理で再組織化して生活しやすくする。隙間に陥る人々を、制度で埋めるのではなく、地域で支える。不可視化された困りごとを中心に地域をつくる。
- ・すべての人々を、困りごとを抱えた存在として捉え、相互扶助の関係をつくる。地域で困りごとを解決する力は、地域の資産となる。

ペストフの三角形 (北欧的福祉国家論)

国家—再配分

北欧では
協同組合が
隙間を埋める
という論



家政—互酬性

市場—交換

静岡方式

- ・理念は、相互扶助（助け合い）であり、互酬の原理に立つ。
- ・左下の三角形「私」を拡張して、「共（地域）」の領域を拡張する
- ・隙間を制度で小さくしようとするのではなく、隙間を、互助の原理に則って、再組織化することで、隙間に陥った人々を生きやすくしようとする
- ・隙間に陥った人々を支えるにあたって、制度ではなく、地域（コミュニティ）を用いる

非福祉・非就労

・「障がい者の支援の対象にならない＋一般競争の求職活動に自力で吸収される機会に乏しい」若者を対象とする

「福祉」 障がいなどがあって「働けない」のなら、再配分によって行政が面倒を見る

「就労」 「働ける」のなら、労働との交換を通じて企業が面倒をみる

「家政」 働いていないことを、家族が問題視しないのなら、家族が面倒を見る

若者の就労支援とは、三つの小さな三角形によっては適切に対応できない問題の可視化としてスタート

半福祉・半就労

- ・ワークフェア： 財政悪化や失業率の増加で、小さな福祉を志向する状況下で、「上の三角形」の力を用いて、隙間にいる人々を「右下の三角形」への方向付ける
- ・つまり、半福祉・半就労とは、もともとは「隙間」、つまりは、非福祉・非就労に位置づけられていた就労困難な若者たちを、行政が介入して、上の三角形と右下の三角形にまたがらせるかたちで、所在を確保していこうという取り組み

「反」福祉？

「人を福祉依存にしない」という信念と人の可能性を信じることの重要性

静岡方式は、問題ではなく強みに注目する。「働ける」ことを前提とするIPSは、従来型の就労支援と比べて、ほぼ2倍の就労率を示す。ただし、静岡方式が、福祉的援助を直ちに排除するわけではない。

就労のための福祉的支援：就労するためには、様々な支援が複合的に行われる必要がある。当座の生活費の確保、借金の整理、家賃の未払い、ひとまずの食べるものの入手、就労先の決定に伴う住居の確保、通勤手段の確保など。

ただし、静岡方式では、これらの支援を福祉的支援と考えているわけではなく、むしろ、就労支援であると考ええる。

就労を補完するものとしての福祉的支援：働くことによって生活に必要な収入がすべて得られるわけではない。足りない分の収入は何らかの形で補う。

IPS（重い精神障害を持つ人々に対する就労支援の手法）

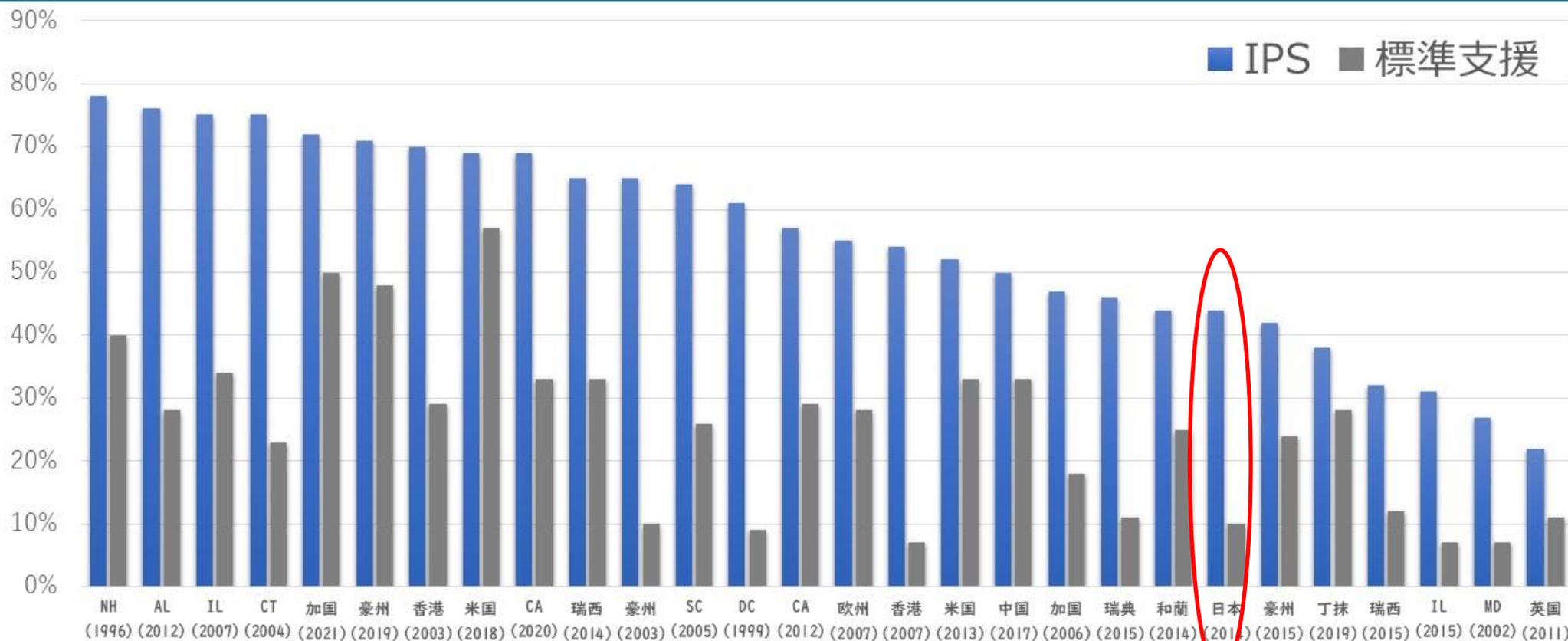
（現在は、多様な対象に適用）

PTSD診断を受けた者、薬物依存との合併症、高齢者、精神症状の初発者、ホームレス、犯罪者、多様な人種・エスニック集団、障がい者年金受給者、さらに薬物依存症者、知的障害、一時公的扶助、慢性痛、難民、出所者、脊髄損傷、低額診療所利用者

- ・働きたい人みんなに開かれている
- ・一般雇用に焦点を当てる
- ・迅速な職探し
- ・目標を定めた企業開拓
- ・本人の好みが決断を導く
- ・個別化された長期的支援
- ・治療との統合
- ・扶助・給付に関するカウンセリングを含む

IPSの効果 働けるという前提を持つことの価値

IPSに関する28無作為化比較試験の結果



Bond: Evidence for the effectiveness of individual placement and support model of supported employment. IPS Employment Center, 2022. URL: <https://ipsworks.org/index.php/evidence-for-ips/>

平均就労率： **IPS 55% vs 標準支援 25%**

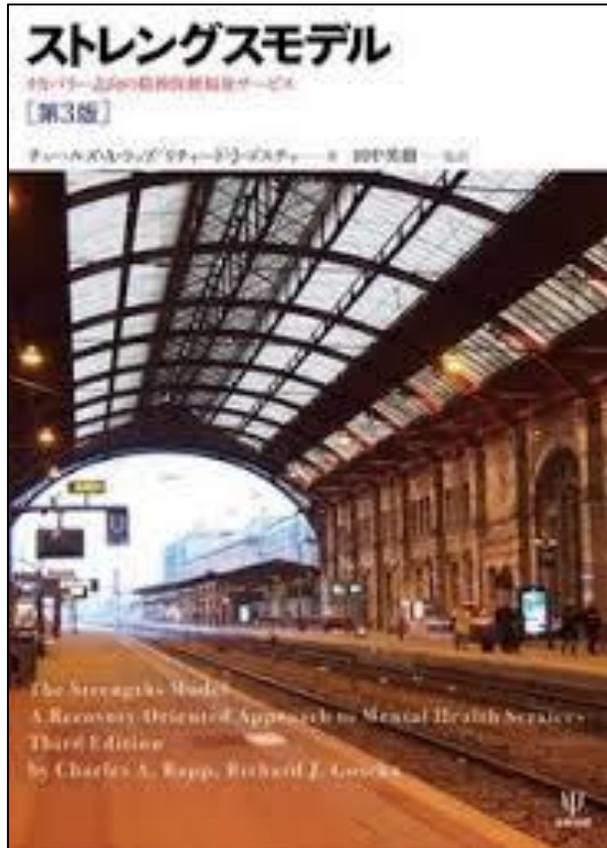
「反」就労？

静岡方式では、ハローワークを代表とする、雇用行政に位置づく、従来型の就労支援で「相談」のみの一人では動けない若者の就労支援
既にある求人に応募したり、マッチングしていくことではなく、本人の「好きなこと・好きなもの・好きな人」に導かれ、本人が主人公で伴走支援をする

キャリアカウンセリングや、本人をアセスメント（査定）する立場には立たない
本人を顧客／消費者にしない

ただし、静岡方式が、他の就労支援を排除するわけではない。
たとえば、ハローワーク経由で提供される職業訓練につなぎなおすことはしばしば有用、この社会で提供されている応援の仕組みが使えるように伴走する

ストレングスモデル



1. クライエント(本人)はリカバリーし、生活を改善し高めることができる
2. 焦点は欠陥ではなく個人のストレングスである
3. 地域を資源のオアシスとしてとらえる
4. クライエントこそが支援過程の監督者である
5. ケースマネジャーとクライエントの関係性が根本であり本質である
6. われわれの仕事の主要な場所は地域である

静岡方式の「ストレングス」は 好きな事・好きなもの・好きな○○

皆さんは困っている時に

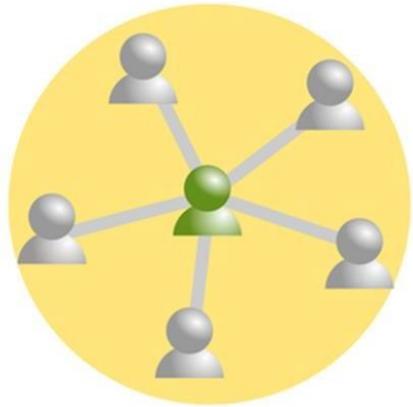
「長所（強味）」 「自分の希望」 「困りごと」
を言えるでしょうか

好きなことから、主体的に大切にしていること、魅力
や可能性習慣にしている事を教えてもらい表情が豊かにな
ったり、話す量が増える。

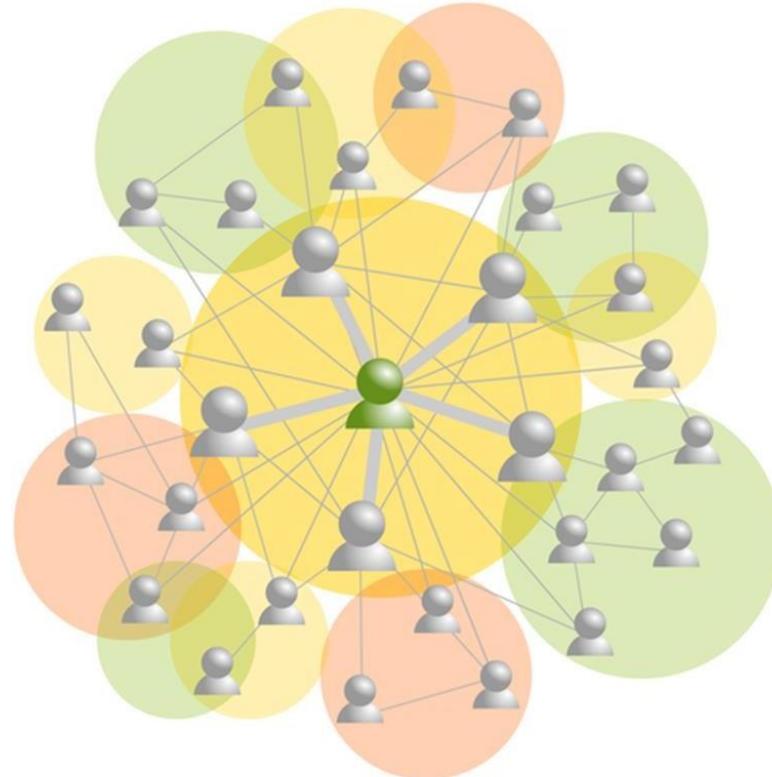
縁を増やす、運に出会うこと、運を縁に変えていくこと
好きなことが話せない人もいる。

市民ボランティア・試行錯誤

The Strength of Weak Ties



CONNECTIONS THROUGH STRONG TIES



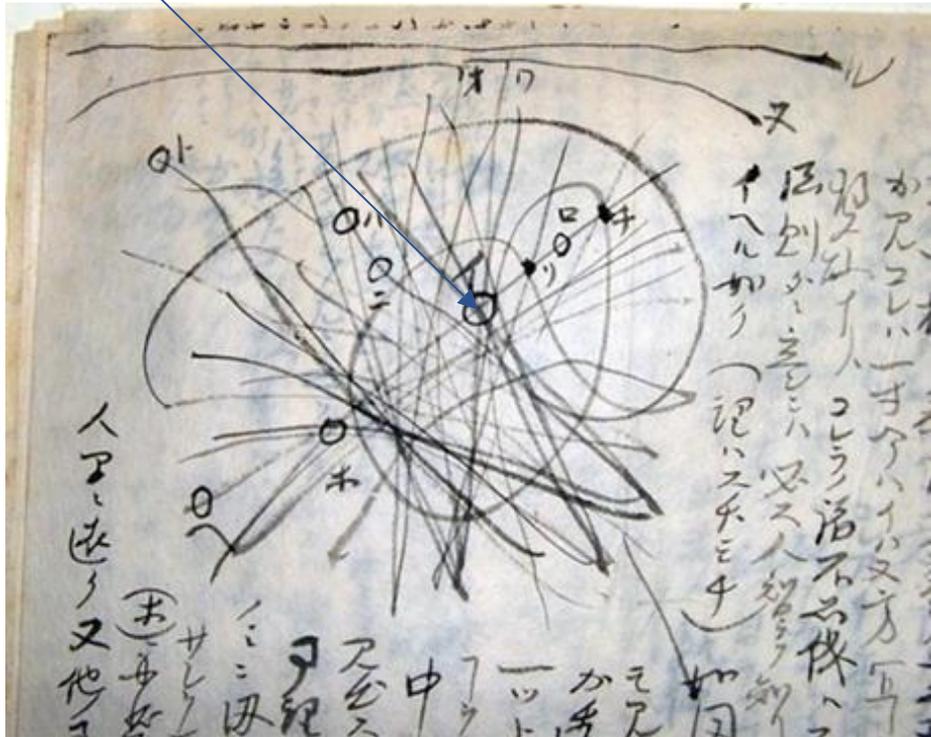
CONNECTIONS THROUGH WEAK TIES

- ・集合知を得る
- ・純粹であることのカ
- ・関わる全ての人が孤立孤独にならない(困りごとや不安は人数分の1、喜びは人数分の倍)
- ・ウィークタイズ(弱い紐帯)の強み

萃点

萃点（すいてん）とは

【南方曼荼羅から】



- さまざまな因果系列、必然と偶然の交わりが一番多く通過する地点。そこから調べていくと、ものごとの筋道は分かりやすい。そこですべての人々が出会う出会いの場、交差点みたいなもの・・・非常に異なるものがお互いにそこで交流することによって、あるいはぶつかることによって影響を与えあう場、それが萃点

（鶴見和子『南方熊楠・萃点の思想』藤原書店）

相互扶助社会へ（脱福祉・脱就労）

弱さを持った私たちは、時に「不登校」「ひきこもり」
「落ちこぼれ」となり、「ニート」となり、
時が経ち「生活困窮者」「福祉依存者」となる

社会で排除されたものがつながりなおし、
社会を分解・腐食させながら、
弱さを持った私たちが生きられる
自治の場へと社会をつくりなおす
排除型の社会を乗り越える